

創刊号

群大病院 地域連携だより

病院の理念
患者さん中心の医療を推進する
基本方針
一、高度先進医療の開発と実践
一、次代を担う医療人の育成
一、地域医療への貢献

「群大病院地域連携だより」創刊に向けて

病院長 森下 靖雄

我が国では、従来より自己完結的医療の傾向が強いと言われていています。そのため、医療機関の機能分担と連携は欧米に比べてかなり遅れています。医学の進歩・発展にともなった適切な医療を地域住民に提供するためには、病病連携、病診連携などの医療連携を緊密にして我が群大病院のもつ医療機能を効率的に発揮することが望まれます。

そのような医療連携は、各医療機関の紹介・返送・逆紹介によって実践されます。返送は紹介された患者さんを元に戻すことであり、逆紹介は紹介がなく病院を受診した患者さんを、病状に沿って地域の医療機関に紹介することです。

この紹介・返送・逆紹介が適切に行われているとは言いがたいのが現状です。群大病院は北関東における中核病院として、地域の医療機関との連携を大切にしてきました。しかし、特定機能病院としての群大病院への紹介率は高いのですが、地域支援病院や診療所への返送や逆紹介に対する全職員の理解は充分ではなかったように思います。群大病院が地域支援病院や一般病院、診療所へ返送や逆紹介を今

以上に積極的に実行することで、患者さんは安心して地域で生活できるようになると思われま



す。そのためにも、群大病院を選び治療を受けて病状が安定したとき、身近な地域の医療機関で治療を受けることが必要です。このとき、患者さんが喜んで地域の医療機関を訪れるためにも病状が悪化したときは、いつでも群大病院が引き受けることが約束されなければなりません。その結果、住み慣れた地域で安心して暮らすことができるのではないのでしょうか。これこそ医療連携の果たす役割であり目的であるわけです。すなわち、医療連携とは、あらゆる医師が患者さんを“自分の患者”ではなく、“私たち地域の患者”として認識し、さらに患者さんの生活を大切にすることを意味するのです。

今回の「群大病院地域連携だより」の発刊の目的のひとつは、医療連携の真の意義を地域住民の方々にも知ってもらうことでもあります。これにより、効率の高い医療を地域住民が安心して受けることが可能になります。



群大病院に望むこと

群馬県医師会理事 田中 義

群馬大学病院と群馬県医師会とは平成12年度から3年間、群馬大学病院と県内の医療機関との連携をはかり、日常診療に役立てようとする事業を行ってきました。患者さんでも活用できる、インターネットによる検索システムが近々出来上がる予定です。最近、診療科の表示が臓器別になり、わかりやすくなったことは患者さんにとって朗報です。しかし患者さんの中には、大学病院に行くに遠慮して、検査結果や病状の説明を充分に聞けない人が少なくありません。患者さんへの病状説明は懇切丁寧に

お願いします。
群馬大学病院の最大の特徴は、高度先進医療（保険の適用がない特殊医療）ができることです。この事についての情報が地域医療機関に充分伝わっていません。患者さんを紹介する時のために、費用のことも含めて是非知らせていただきたいと思います。
群馬大学病院と地域医療機関の連携システムが徐々に機能してきました。スタッフをそろえて病診連携センターが充実する事により地域での群馬大学病院の果たすべき役割が増大する事と期待しています。

群大病院の地域連携推進には

副病院長 森川 昭廣

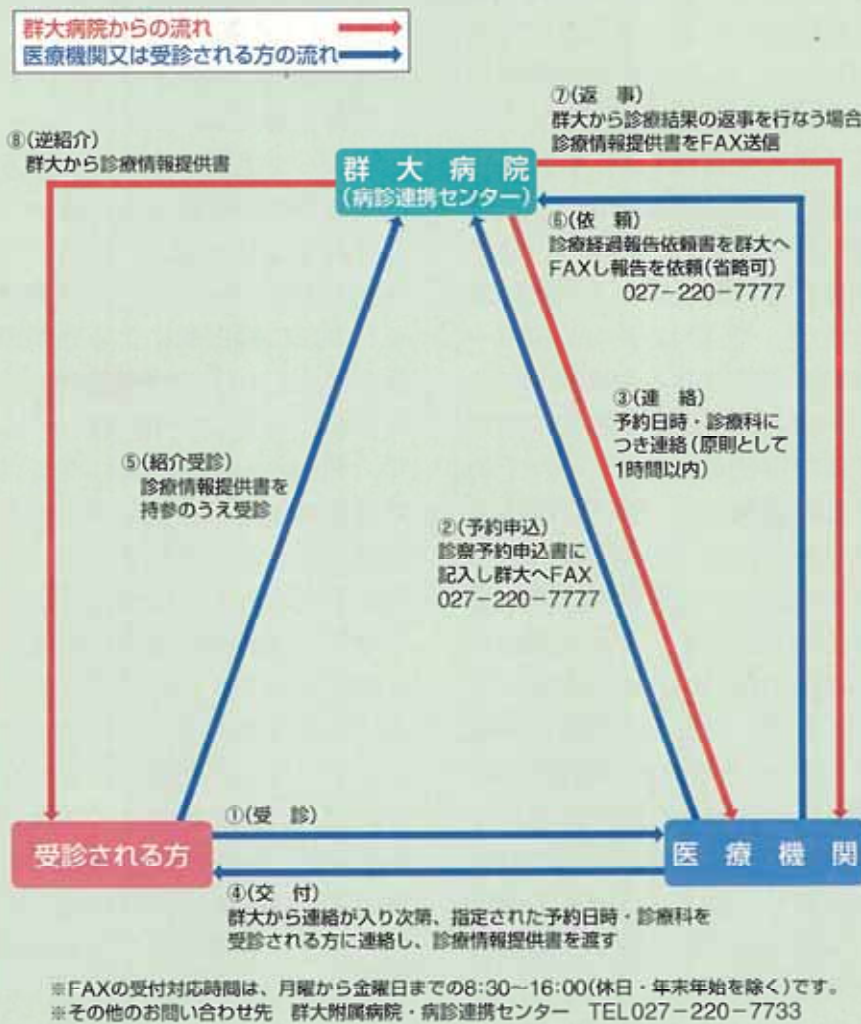
群大病院の基本方針の一つとして、“地域医療への貢献”があります。この方針を達成するためにはいつも地域との太いパイプが必要です。そして、そのパイプがいつも開いていなくてはなりません。群大病院のパイプは、地域の病院、診療所、医師会、保健福祉事務所（保健所）、さらには県や市をはじめとする行政機関などにつながっています。一方、そのパイプの群大病院での入口または出口が“群大病院病診連携センター”（以下病診連携センター）です。既に群馬県医師会と群大病院とは地域連携事業を3年にわたって行ってきました。さらにインターネットを通じてさらに便利に、そしてパイプを太くしたいと考えています。

病診連携センターでは専任の職員が患者さんの紹介、逆紹介業務、さらには病院での診療結果等の報告にあたります。ここでのモットーは正確、迅速、丁

寧です。その活動がなによりも患者さんに少しでもお役に立てばと考えています。また、地域の病院の先生方、医師会の先生方、行政の皆様は群大病院や医学部が持っている高度先進医療、施設、ノウハウ、情報を提供させていただき、一方でまた患者さんをホームドクターにお返しすることにより、医師にも患者さんにも連携による安心の医療ができるようにしたいものです。

群大には県下15番目の医師会があります。この医師会を通して医師会、県市町村の生の情報をキャッチし、病診連携センターや診療各科に情報を発信しています。地域、病診連携センター、群大医師会が直線ではなく輪になってどこから発信された情報でもかならず病診連携センターにくるよう、そして地域へ行くようにしたいと思います。皆様の御利用で益々磨きのかかった病診連携センターを目指します。

地域医療機関との病診連携について



取組んでいます

「駐車場問題」

病院長補佐 堀内 龍也

お体の調子がよくなくて来院される方々のために、駐車場を十分確保できるよう日頃頭を痛めておりますが、大変ご不便をおかけしておりますことをお詫び申し上げます。

駐車場問題を改善するために、病院として幾つかの取り組みを行っておりますので、ご理解の上、ご協力をお願い申し上げます。

- ①病院に隣接して立体駐車場を建築して駐車スペースを広げることを計画しております。
- ②診療を受けるために来院された方にはできるだけ病院に近い駐車場（第一、第二、第四駐車場）に駐車していただき、付き添いの方には少し離れた第三駐車場をご利用いただくようにしております。職員は第三駐車場の一部及び、道を隔てた西キャンパス駐車場を使用しております。
- ③外来受診される方が朝に集中

しないように、8月から予約診療を確実に行うことにいたしました。したがって、予約時間の少し前に来院していただければよいこととなります。会計カード提出順には診療いたしませんので、早朝から来院していただいても診察は早くなりません。このことにより、来院される方が早い時間帯に集中しないで、駐車場の回転がよくなることを期待しております。

- ④お体の不自由な方が多数来院されますので、病院の玄関口近くには乗り降りしていただけるスペースを広く取りたいと考えております。したがって、玄関前の駐車は厳にお断りしており、時には移動をおねがいしております。ご不便をおかけいたしますが、ご協力をお願い申し上げます。

「予約制」

耳鼻咽喉科教授 古屋 信彦

現在病院では良質な、待たせない診療を目標に、できることから解決することを実践しております。学生同行による患者動態調査によりますと、ある日の群大病院新患96人の平均診療時間は37.1分、また平均全診療時間は255.5分となっています。まさに「群大受診は1日仕事」という評価を裏付けています。病院規模からしますと当病院の適性外来患者総数は1日1,100人程度ですが、実際は平均1,600~2,000人の患者さんを診察しております。このような状況下での有効な解決策として、1) 予約診療の徹底、2) 窓口受付順診療の廃止、3) 受診者数の適正化などによる全診療時間の短縮を考えております。現在受診者専用駐車場は約800台確保しております。しかし予約診療が徹底していないため受診時間に関係なく早くから来院するため午前9時30分には満車になるのが現状です。私たちは初めて受診する方を除いた全科予約診療制を導入することにより、1) 駐車しやすく、2) 受診時間も短く、

- 3) 良質な医療を提供できると考えております。本院は
- ①予約診療を徹底化します。
- ②診療科は8時30分診療開始を厳守します。
- ③予約人数の適正化を図ります。
- ④待ち時間予測表示サービスの工夫を考えています。

これらを実践するには、受診される皆様のご協力もお願いしなければなりません。従来、一部の診療科で行っていた診療カードの窓口提出順による診療順番を廃止し、予約時間優先の診療体制にいたします。従いまして、朝6時から再来受付機の前で順番を取ることは早く診察を受けることにはなりません。朝早くから来院する事は意味がなくなり、予約時間直前に来院されれば十分です。このことはまた、駐車場混雑緩和にも結びつきます。さらに症状の安定した方には、お住まいの近くの関連する病院、医院へご紹介し、日常的診療は大学病院以外でいただき、必要に応じて大学病院に来院していただくこと（病診連携医療）となります。

ホームページアドレス

<http://www.med.gunma-u.ac.jp/hospital/index.html>

外来診療日一覧

原則として下記のとおり初診受付を行っております。

○…受付 ●…紹介状を持参した方のみ受付 ▲…急患のみ受付

診療科名	月	火	水	木	金	備考
呼吸器・アレルギー内科(一内)	○	▲	○	▲	○	
内分泌・糖尿病内科(一内)	○	▲	○	▲	○	
消化器内科(一内)	○	▲	○	▲	○	
肝臓・代謝内科(一内)	○	▲	○	▲	○	
循環器内科(二内)	▲	○	▲	○	▲	
呼吸器・アレルギー内科(二内)	▲	○	▲	○	▲	
内分泌・糖尿病内科(二内)	▲	○	▲	○	▲	
腎臓・リウマチ内科(三内)	○	▲	○	▲	○	
血液内科(三内)	○	▲	○	▲	○	■初診(凝固のみ)
精神科 神経科	○	○	○	○	○	
小児科	○	○	○	○	○	
呼吸器外科(一外)	○	○	○	○	○	
消化器外科(一外)	○	○	○	○	○	
乳腺・内分泌外科(一外)	○	○	○	○	○	
小児外科(一外)	○	○	○	○	○	
移植外科(一外)	○	○	○	○	○	
循環器外科(二外)	○	●	○	●	○	
呼吸器外科(二外)	○	○	○	○	○	
消化器外科(二外)	○	○	○	○	○	
乳腺・内分泌外科(二外)	○	○	○	○	○	
移植外科(二外)	○	○	○	○	○	
整形外科	○	○	○	○	○	
皮膚科	○	○	○	○	○	
泌尿器科	○	○	○	○	○	
眼科	○	○	○	○	○	
耳鼻咽喉科	○	○	○	○	○	
放射線科	○	○	○	○	○	
産科 婦人科	○	○	○	○	○	■月・水・金曜日は産科休診 ■火・木曜日は婦人科休診
麻酔科 蘇生科	○	○	○	○	○	
脳神経外科	○	○	○	○	○	
神経内科	○	○	○	○	○	
歯科 口腔外科	○	○	○	○	○	
核医学科	○	○	○	○	○	■紹介状持参が望ましい ■は検査結果
総合診療部	○	○	○	○	○	

※専門外来を初めて受診希望される患者さんは、原則として午前10時30分までに「初診受付手続き」を行ってください。

お知らせ

「患者さんの権利と責務」を標示しました。

「患者さんの権利と責務」を決め、院内各所に掲示しておりますので、ご一読ください。

「医療福祉相談を実施しています。」

お問い合わせ先 ☎027-220-7858 <医療福祉相談部>

「ボランティアを募集しています。」

お問い合わせ先 ☎027-220-7827 <医療サービス室患者サービス係>

「ご意見箱」を設置しています。

院内各所に「ご意見箱」を設置しています。皆さんの病院に対するご意見をお聞かせください。

※本紙は季刊発行を予定しております。次回は11月発行予定です。

編集後記

皆さんは大学病院にどんなイメージをお持ちでしょうか？ 漠然と「白い巨塔」をイメージされる方が多いのではないのでしょうか。アンケート調査の結果では、多くの医学生も同様のイメージを持って入学しますが、医学・医療の現場を体験することでイメージが変わるそうです。想像と現実のギャップは体験し

ないとなかなか埋められないものです。この冊子が皆さんと群大病院を繋ぐ架け橋の1つになればと願っております。(D坊)

本紙に対するご感想・ご質問をFAX又はご意見箱(院内に設置)にてお気軽にお寄せ下さい。
医学部総務課文書法規係
FAX 027-220-7720